

みみよい

なお知らせ!



みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳の日

着々進む 聴覚障害者のための字幕制作 ボランティア登録者 30 名

サポートセンターは発足してこの4月で5年目を迎えます。手話通訳者・要約筆記者の養成の影にかくれて、情報支援者の一翼を担う文字情報を提供する字幕制作者の養成とDVD等へのボランティアの実践活動も進んでいます。

I 佐賀国体・全国障害者スポーツ大会に向けての有望種目や強化選手について佐賀県体育協会が制作している「シリーズもっと知りたい佐賀のスポーツ」を意欲的に字幕制作しています。

DVD「佐賀のスポーツ」シリーズ No.1

- 5分×6ジャンル=30分
- ソフトボール…ダイワアクト
- 自転車競技…龍谷高校自転車部
- 軟式野球…ひらまつ病院
- クライミング…多久高校登山部
- 新体操…佐賀女子高校新体操部
- ハンドボール…レッドトルネード



これまで字幕制作した作品

- 歴史 武雄の蘭学
- 唐津が生んだ建築界の巨匠たち
- 自然 高潮漂流記(有明海水害)
- おもしろ!ぐるりんクイズ!
- 巨石パワー区 WRSB(ワラスポ)
- 地域もの ゆっつらーと佐賀市
- うれしの新発見 彩なすまち唐津
- 武雄観どころ散歩 のんびり玄海町
- ガタリンピック 伝承芸能祭
- しろろ!しろいし♪
- 魅力あふる夢のまち伊万里
- 鳥栖市観光プロモーションビデオ

II NHK総合及び東京キー局の字幕付与率は約64%(平均値)で、ローカル局が自社制作している番組は、テロップ表示が多く字幕放送はほとんどありません

字幕制作の流れと人材育成



- 字幕制作の基本 聴覚障害者が見やすい・読みやすい=快適に見られる字幕を基本に
 - ・文字数は、最大で1行16文字×2行まで 1秒間に3.5文字表示するように調整(洋画の字幕は1秒間に4文字が基本とされている)

● 作業手順

作業1

①音起こし

① 音声や音情報を文字化する。 ②字幕を表出するタイミングを決める。

② 1秒間3.5文字表示を基本に要約、タイミングを調整する。最後にルビ・色を付ける。

作業2

映像と作業1で作成した字幕データを合わせ、視聴できるようにする。

● ボランティア養成講座修了者(平成26-29年度)

一般 27名 全6-8回 学生 26名 全5-6回

○ボランティア登録者数(平成30年4月1日現在)

Aクラス9名 Bクラス8名 Cクラス13名

手話通訳者全国統一試験 4名合格 全国トップの合格率

(社福)全国手話研修センターが昨年12月2日実施した平成29年度手話通訳者全国統一試験の合格者発表が3月9日にありました。本県からは11名が受験し4名が合格。合格率36.4%で全国トップ。全国では1800名が受験し232名が合格。今回合格率が30%を超えたのは本県のみ、岩手・奈良のみ。



木幡なみさん



宮島悦子さん



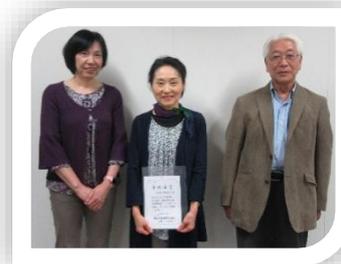
田口佐和子さん



大野良子さん

全国統一要約筆記者認定試験

要約筆記者1名が合格、合格証伝達式が行われました。(3月30日)



松尾千恵子さん
(写真中央)

シリーズ (5) 山口相談医のひと言コメント



「加齢と難聴について」

特に病気ではなくても、年齢とともに聞こえ方は悪くなる場合があります。個人差が大きいので、ご高齢でもよく聞こえる方もあれば、50代で補聴器ということもあります。多くの場合、高い音から聞き取りにくくなって（たとえば電子体温計のピピッと音が聞こえない）、ついで低い音が聞き取りにくくなって、更に進むと中くらいの音（会話で大事な領域）が低下してきます。純音聴力検査の平均値でいくと30dBくらいを超えると難聴の領域です。

経験的には、30dBを超えるくらいからなんとなく「聞き漏らすことがある」という実感が出現し始めますが、まだまだという感じのようです。40～50dBくらいになると、「おや、聞こえが悪くなっている」という自覚がはっきりとなってきます。

「何と言っているのか聞き取れない」というになると、いろいろ不自由があり、場合によっては他人との関わりを避けるようになる方もあります。

最近の研究では、難聴が認知症の発症リスクのひとつとしてあげられており、しかも「予防対策が可能である領域」だとされています。気になる方は、早めの相談を心がけてください。

さが桜マラソンが3月18日(日)行われ、国内外から市民ランナー1万人が春の佐賀平野を力走されました。関係者では手話講座Ⅱ受講生の野崎和幸さん、10kmにろう者の北野幹亮さん、山口拓夢さんが完走されました。



明治維新150年を記念した肥前さが幕末維新博覧会が3月17日開幕した。佐賀城内の市村記念体育館をメイン会場として幕末維新期のリーダーたちの志や思い、最新映像技術によるシアター等で臨場感を体感できる。来年1月14日まで開催される。障害者手帳所持者は介助者1名を含め無料。オープンの日に入館した聴覚障害者からは情報保障に関して多くの声が寄せられました。

- ・情報支援者＝手話通訳者がいなかった。
- ・モニターに字幕が出るが両サイドにあったり文字が小さかったり。画面の転換が早くてついていけない。
- ・通路が暗くてアテンダントが先に案内してくれないとどこに行ったらよいか不明。

当センターでは情報保障に関してクレームの件を含めてあらかじめ諸々要望したが、若干しか改善されていない。

日曜教室

□ 難聴者向け(3月10日)

佐賀市がめざす地域包括ケアシステムと高齢者福祉サービス(要旨)

佐賀市高齢福祉課 古賀宏副課長(3月10日)

- ◆佐賀市の65歳以上人口は62,500人、人口の6.7%(H29年3月末)、在宅9割だが一人暮らしは年々増加、1万人に近づく。うち要介護認定者は12,540人(65歳以上人口の20.1%、5人に1人と全国・県全体より高い) 特にH35年に団塊の世代が全て75歳以上となる。
- ◆介護保険は中部広域連合で行っているが、毎年30～40億円の負担金が見込まれ、1～2億円ずつ増加する。
- ◆埼玉県和光市の介護割合は9.3%と低位のため、担当部長から話を聞いて参考にしている。地域でいかに在宅生活をするか早速おたっしや本舗で毎月自立支援ケア会議を実施することにした。
- ◆地域包括ケアシステムでは、神野地区で一人暮らしの高齢者のゴミ出し支援、大和久保田地区で外出・買い物支援、三瀬でアスタラビスタと連携してトラックによる買い物支援を始めている。
- ◆佐賀市のアンケートでは介護予防に役立つものの1番目は地域とのつながり、2番目認知症予防、3番目が筋力アップであった。まず閉じこもりを防ぎたい。
- ◆30年度以降、中部連合のサービスのうち生活援助やデイサービス等が、大幅に地域で受け持つ支え合いに移行する。今後地域での話し合いをすすめて、自助・互助・共助・公助の分担を見直し、地域包括ケアシステムをつくりあげていくことにしている。

□ ろうあ者向け(3月25日)

佐賀国体・全国障害者スポーツ大会に向けてのスポーツ振興について佐賀県体育協会東島敏隆理事長の講演がありました。東島理事長は42年前の佐賀国体＝若楠国体にバスケットボールの選手として出場された思い出、団体の得点の仕組み、ここ3年間43位と低迷している状況、そのための強化策についての話、障害者も健常者も関係なくやれる範囲でスポーツを楽しんでいくことが大事としめくくられました。参加者41名。

手話通訳講座Ⅰ・Ⅱ修了式(3月25日)



通訳Ⅰ課程 修了者6名



通訳Ⅱ課程 修了者6名

編集後記：今年はお天気の日が続いて、ゆっくり桜を楽しめましたね(M,J)

- 要約筆記者養成講座≫ 4月28日(土)～9月29日(土)武雄会場
- 社会参加促進事業≫ 5月21日(月)大牟田方面(要予約)
- 巡回聴こえの相談≫ 5月9日(水)午前10時～午後3時
会場：鹿島市保健センター(要予約)
- 聴こえのセミナー≫ 5月30日(水)午後1時半～午後3時
(要予約)

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目1-12(佐賀商工ビル4階)
TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705
メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp
ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

<開館時間>

9:30～18:00

<閉館日>

毎週月曜日、祝日、年末年始